

## 第1章 農業の理解

### 1. 農業の魅力

#### 農業は儲からない？

現場の農家の方からよく「農業は儲からない」という意見を耳にします。また、それを裏付けるように、近年は農家の数や農業産出額の減少が続いています。

そうしたなかで、島根県では農地の荒廃が進みつつあり、またその先には集落崩壊まで懸念されている状況です。

以前の農業は、生産は農家、流通は農協や卸売市場というようにそれぞれの役割分担が明確にされていました。また、農産物の安定供給と生産者の経済安定を図るために、生産費を補うような生産物の価格補償制度や輸入制限措置を導入してきました。

この結果、消費の低迷や農産物の輸入自由化が行われているような環境で勝ち残る競争力を持つ農家が育ちにくかったようです。つまり「経営」という概念の導入が、されにくかったと言えるのではないのでしょうか。

#### 企業経営ノウハウでチャレンジ

しかし近年は農家が農業生産に留まらず直接販売を行うことや、生産した農産物の加工を行うなど、農産物に付加価値をつける取り組みが各地で行われ、またインターネットを通じたPRや消費者との交流を行っている事例がみられるようになってきました。

このように、経営者の創意工夫や知恵次第で「魅力ある農業」の実現が可能であり、他産業に負けない収益性をあげている経営もみられるようになりました。

また、近年の食品表示偽装事件やBSEの発生などを通じて、消費者の農産物に対する安全性、安心志向は高まっており、価格が少々割高であっても安全性の高いものに対しては購買の意向は強いなど、農業への追い風が吹いている状況にあります。

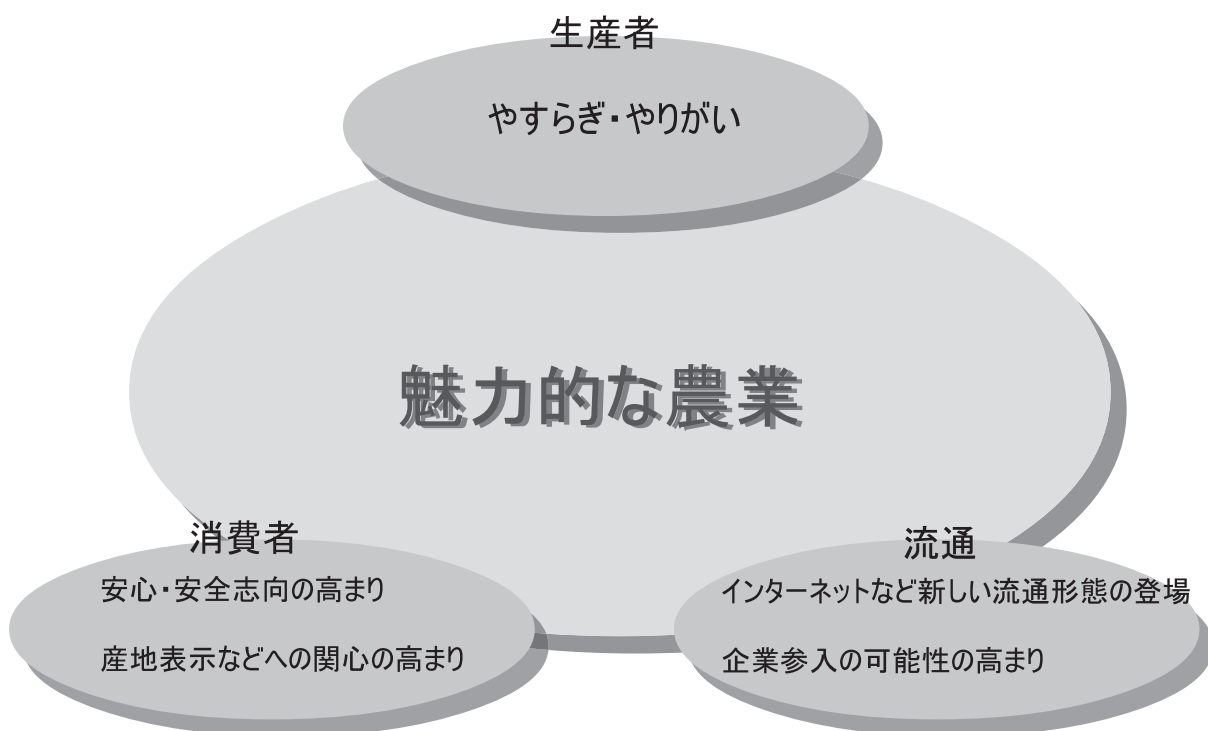
## 生活を支える重要な産業

わたしたち農業生産者でない者は、食料の多くを八百屋やスーパーマーケット等で購入しています。そして、多くの農畜産物は海外から輸入され、その割合はどんどん大きくなっています。

しかし、それで良いと思っている人は少ないのではないのでしょうか。なぜなら、食料は人間の生存に必要不可欠なものであり、まず第一に国内で安定的に生産されることが重要であるからです。第二に安心して食べることができる必要があります。

農業はそうした人々の生活を支えるという気概をもって取り組むのに相応しいやりがいのある仕事です。

また、経済発展した日本においても農村や農業生産の光景は人々の心に原風景として強く根付いているのではないのでしょうか。自然や地域風土との深いかかわりを持つ農業に従事すれば独特のやすらぎを得ることができるでしょう。



## 消費者のニーズに応えて

近頃は食の供給者である農業に対して、従来とは異なる農業の在り方を求める声が聞こえてきます。安全な食生活を送りたい人々は、農産物パッケージの表示内容に以前より注意を払うようになってきました。

誰が作ったのかを知りたいといった消費者の要求から、産地直送や直売所での購入が増加しており、さらにはどのように作られ、どういった流通経路でどういった業者が介在していたのかまで明らかにする「トレーサビリティシステム」の導入も提唱されはじめています。

もしこれから農業を始めるのなら、他の産業と同様に経営に必要な研究を怠りなくつづけてください。そして、これからの農業は生産技術の向上、新品種の導入といったことに加えて、販売方法など商品性を高める工夫をつづける必要があります。

## 過渡期の産業だからこそ魅力があります

ここまで述べてきたように、今農業は産業としての過渡期を迎えています。農業は決して楽な産業ではありませんが、過渡期であるからこそ企業マインドをもった新規参入者にとっては、やりがいのある条件が整っていると言えるでしょう。